



Book Reviews

ブックレビュー

書林探索

人間シュンペーターに肉薄 歴史家の手に成る伝記の感動

すでにシュンペーターについては少なからぬ伝記が書かれている。しかし、本書はおそらく、人間シュンペーターに最も肉薄した伝記として長く名前が残るだろう。

その生涯は日本ではよく知られている。オーストリアウィーンから一帝国に生まれ、ウィーン大学で経済学を学び、20代で早くも頭角を現す。第1次世界大戦の激動を経て財務大臣、銀行頭取を務めるものの、無残な失敗に終わる。学生生活に戻り、米国のハーバード大学に迎えられる。次々と大著を物しながらも、ケインズ革命の台

頭の陰に隠れて失意のうちに世を去る。

本書の強みは、なによりも歴史家が書いた伝記ということだ。著作のみならず日記や書簡類を駆使して著者は対象の内面に迫る。シュンペーターには資本主義に関する最も正確かつ徹底的な分析をしたという自負と、生い立ちに起因するアイデンティティへの不安があった。また、彼の女性関係を含む私生活についても踏み込んだ記述がなされている。さらに経営史家マクロウは企業家活動に注目したシュンペーターの議論に独自の

評者
若田部昌澄

早稲田大学政治経済学術院教授

解釈を与えている。

監訳者が指摘するように、本書はロバート・スキデルスキのケインズ伝に似ている。歴史家スキデルスキもマクロウと同じく膨大な1次資料を渉猟してケインズの人と時代に迫った。文学を含む該博な造詣を駆使して語られる「人生に悲哀感を持つている経済学者」の物語に、読者は深い感動に誘われるだろう。

シ ユンペーターの魅力とは何か。革新と企業家活動を資本主義の原動力と見なしたことは不朽の業績だろう。反面、経済学者の政策関与への懐疑、皮肉に満ちた諦念については大恐慌当時も

経済危機の余波がさめやらぬ現代でも意見が分かれるところだろう。だからこそ検討に値するといえようか。

翻訳は平明で読みやすい。若干の誤植(ヴァイナーの名前など)や既訳の欠落はあるものの、大著としては瑕瑾にすぎない。注や索引を省略してしまう出版社がある昨今、すべて翻訳したことは称賛に値する。

新刊 フラッシュユ

No.1エコノミストが書いた
世界一わかりやすい経済の本

上野泰也 著
かんき出版 1400円

ビジネスから、買い物、年金まで、仕事や日常生活と密着した「経済活動」を、人気エコノミストが経済指標と市場原理の観点から平易に解説する。

凋落 木村剛と大島健伸

高橋篤史 著
東洋経済新報社 1800円

日本振興銀行の木村剛とSFCG(旧商工ファンド)の大島健伸。日本初のペイオフが発動された「振興銀・SFCG事件」の当事者2人の人生を描き、事件の全貌を明らかにする。

戦争と日本人

加藤陽子 佐高信 著
角川oneテーマ21 724円

西南戦争から、政治家・思想家を狙ったテロ、小沢問題、尖閣問題まで、「国家と戦争」を軸に日本近現代史の重層的な見方を語り、乱世の時代を冷静に見定める方法を伝授する。

全線開業！新幹線と

観光列車でめぐる九州の旅
日本鉄道旅行地図帳編集部 編
新潮社 1200円

名所を効率よく巡る観光列車が充実している九州。新幹線の全線開通でさらに旅がしやすくなった九州の観光地、グルメ、宿情報を凝縮した一冊。